墨古沢南Ⅰ遺跡発掘調査現地説明会資料

―日本最大級の環状ブロック群―

確認調査期間：平成 29 年 10 月 2 日～平成 29 年 12 月 28 日

現地説明会：平成 29 年 12 月 16 日（土）

遺跡の概要

墨古沢南Ⅰ遺跡は平成 11・12 年に東関東自動車道酒々井パーキングエリアを拡張する際の発掘調査で発見されました。遺跡からは縄文時代の環状集落と、その下の地層から後期旧石器時代前半期の環状ブロック群が見つかりました。環状ブロック群とは日本の後期旧石器時代前半期（約 3 万年前以前）にのみ見られる、日本旧石器文化独特の遺跡で、石器ブロックと言う石器の集中地点が輪を描くように複数配置された遺跡です。複数の石器ブロックは単独で形成されたものではなく、同じ時期に石器を一緒に作るなどの関係性を有していました。墨古沢南Ⅰ遺跡における環状ブロック群は発見当時、石器総数 3946 点、石器ブロック数 49 ヶ所、推定径 60m×54m を誇る日本最大級の規模であると予測され、遺跡の東半分は開発を免れ保存されていると考えられました。酒々井町はこの貴重な遺跡を後世にも残していくため、遺跡の実態解明に向けた調査を平成 27 年度より着手し、今年は 3 年目、予定している最後の発掘調査を迎えました。過去 2 年間の調査で 186 点の石器を確認し、石器の内容、出土層位と垂直分布から環状ブロック群の東側半分が確実に保存されていることがわかりました。

今年度調査の目的

過去 2 年間の成果は大きいものでしたが、形状や規模など、新たな疑問が生じました。そこで今年度、最後の発掘調査では平成 27 年度に調査した範囲の補足調査、遺跡北側の清掃工場内の調査、遺跡東側の畑を調査し、環状ブロック群の形状と規模の確定、環状ブロック群に付帯する石器ブロックの有無を確認することを第 1 の目的として発掘調査に着手しています。それに伴い遺跡の微地形の把握や地形の形成プロセスの解明、当時の古環境を復元するためのデータ収集も合わせておこなっています。

今年度発掘調査の成果

今年度の発掘調査では、清掃工場敷地内と道路下から遺跡の北限にあたる石器ブロックの発見に成功しました。これにより遺跡の規模がはっきりし、68m×60m を測ることがわかりました。この規模は遺跡発見当時の推定径を超えるものです。形状についても詳細を掴むことができました。全体的に楕円形に近い形態で、環状ブロック群の東側には石器ブロックの空白域が存在し、そこには炭化物の集中がみられます。来年度は過去の調査成果と共に、遺跡の総括報告書を作成予定です。そこでは、遺跡の規模や形状はもちろん、地形や古環境の復元、遺跡の構造分析等を進めて行く予定です。

平成 27 年度発掘調査風景